

平成18年11月 北海道佐呂間町で発生した竜巻災害 現地調査報告

【11月7日】

- 22:00 寒地土木研究所 出発
- 2:00 若佐 着 北海道開発局と合流
- 2:10 若佐 出発
- 3:15 網走開発建設部 着
8日の予定について確認

【11月8日】

- 9:00 若佐 着
現地で写真撮影などの調査
- 10:30 国土交通副大臣・自民党調査団に合流
現地視察後、国土交通副大臣、自民党調査団は、女満別へ
- 12:00 開発局災害対策車で、大臣の行程と準備に関して打ち合わせ
- 13:30 昼食後 再度、現地状況調査（特にF型標識柱）
- 15:20 国土交通大臣視察
- 16:30 現地調査終了
- 19:30 網走開発建設部で、情報収集及び翌日の予定確認

【11月9日】

- 8:30 網走開発建設部で情報収集（航空写真、災害発生直後の写真など）
- 9:00 網走開発建設部発
- 10:00 若佐着 写真撮影などの調査
- 11:00 調査終了

■ 状況報告

(1) 道路の被災

F型標識柱の倒壊：



倒壊したF型標識柱



F型標識柱 梁基部



標識柱設置箇所より、約50m離れた位置で見つめられた道路案内標識板

■被災状況及び現地視察



(2) 竜巻災害対応について

今回、佐呂間町^{わかき}若佐で発生した竜巻災害は、要因である竜巻の現象解明が気象学によらなければならないだけに、寒地土木研究所では被災建造物の復旧をいかに速やかに行う事ができるかということが主要な課題となる。

そのためには、北海道開発局、気象庁等の関係機関との連携を密にし、災害発生時の環境条件、どのような被災の状況か、メカニックな部分や被災建造物が周辺に与える影響などについて技術提供できる体制づくりが急がれ、まずは速やかに被災地に職員を派遣し、現地調査を行い、必要な情報を提供し、関与していく事が重要である。

(3) 寒地土研でのホームページによる情報提供

「北の道ナビ」でのインターネットによる災害情報の提供を行いました。